

第2回 「岩崎久彌伝」

林 田 利 之

●誕生から幼少期

慶応元年/1865 (0歳)

慶応元年(1865)8月25日、土佐国安芸郡井ノ口村で(図1・2)、三菱の創設者である岩崎彌太郎とその妻、喜勢(図4)の間に長男として生まれた。



図1 久彌生家



図2 久彌生家近景



図3 26歳の久彌



図4 父 彌太郎と母喜勢

明治7年/1874 (8歳)

彌太郎は東京に進出(図5)、家族も移ることになり、陸路東海道を行くことにした。川船や馬、人力車などを使いながらも基本は徒歩で、ようやく12日目に東京入りした。久彌は実によく歩いた。祖母である美和(図6)は「この孫はものになる」と思った。



図5 三菱商会本社落成式

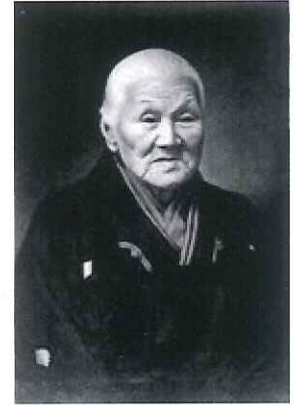


図6 祖母 岩崎美和

明治8年/1875 (9歳)

慶應義塾に入学。

明治11年/1878 (12歳)

慶應義塾を退学し、三菱商業学校に入学。

明治18年/1885 (19歳)

父彌太郎没。

明治19年/1886 (20歳)

叔父、岩崎彌之助(図7)の薦めで米国へ留学。



図7 叔父 岩崎彌之助

明治21年/1888 (22歳)

ペンシルヴァニア大学ウォートン・スクールに入学。財政学などを学んだ。岩崎家のゴッドマザー・美和が書き残した訓戒に、「富貴になりたりといえども貧しきときの心を失うべからず」との1行がある。原点を忘れるな。岩崎4代の心の底にある戒めである。久彌は彌之助の後を継ぎ成長期の一大企業集団を統率したが、若いころから決して奢らず、他者への配慮を忘れない経営者だった。

明治24年/1891 (26歳)

ペンシルヴァニア大学ウォートン・スクールを卒業、帰国後三菱社の副社長に就任。後に外交官になり駐日公使も務めたロイド・カーペンター・グリスコム(図8)とは特に

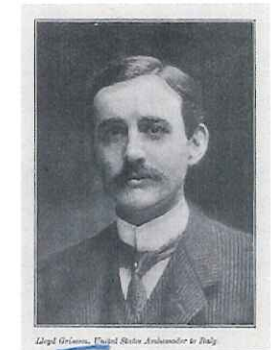


図8 ロイド・C・グリスコム